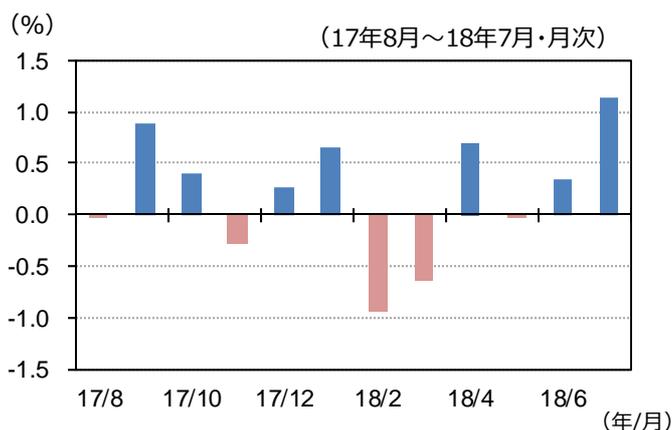


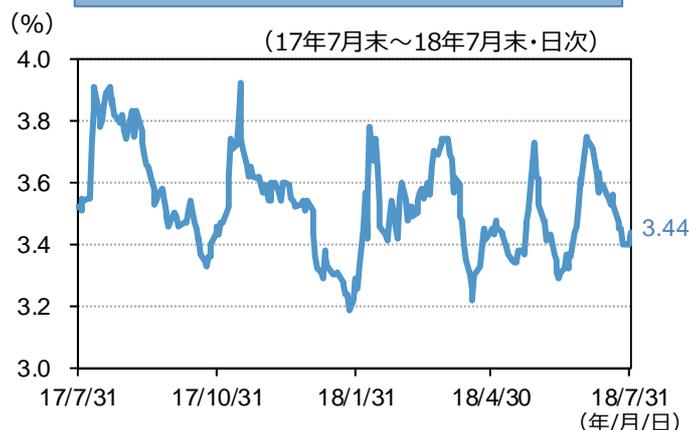
## 7月の米国ハイールド債市場は上昇

月初旬は上昇しました。その後も、米中貿易摩擦への警戒感などが下押しする場面がありましたが、米長期金利が落ち着いた推移となったことなどから、月半ばにかけて堅調に推移しました。以降も、米企業業績の改善期待などを背景に米国株式市場が堅調に推移するなどリスク選好の動きが継続し、上昇しました。

米国ハイールド債の月間騰落率の推移



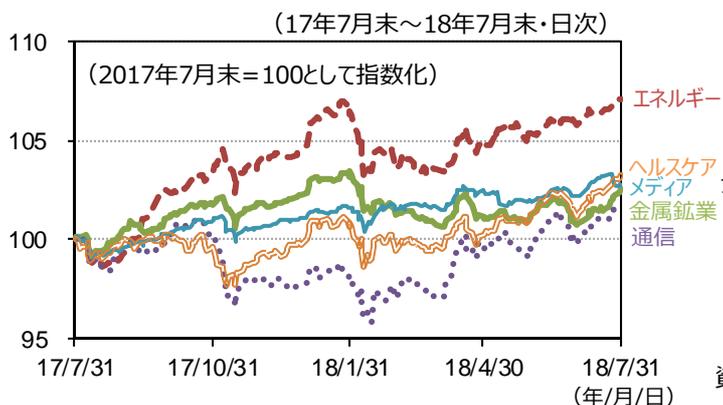
米国ハイールド債の対米国国債スプレッド\*の推移



\*対米国国債スプレッドはOAS（オプション・アジャステッド・スプレッド）。線上償還を考慮した米国国債との利回り格差のこと。

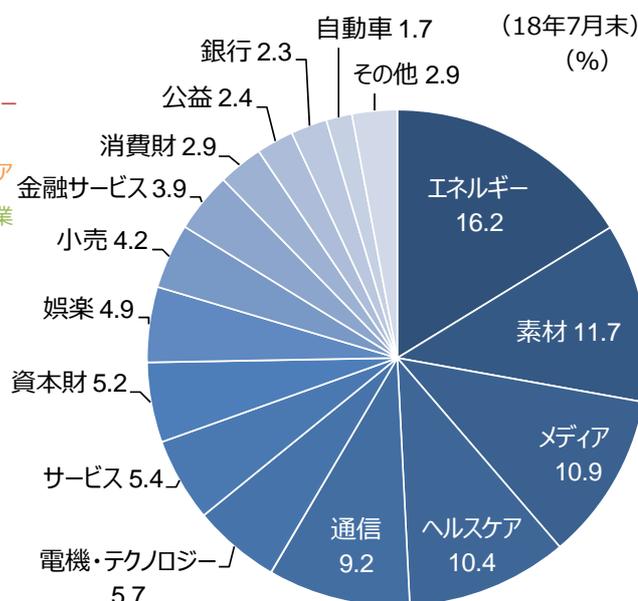
7月の米国ハイールド債主要5業種の値動きはヘルスケア（1.71%）、金属鉱業（1.67%）、通信（1.65%）、エネルギー（1.02%）、メディア（0.56%）とすべて上昇しました。

米国ハイールド債の業種別の推移



\*セクター別のインデックス：ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイールド・インデックスのセクター別インデックス

米国ハイールド債の業種別構成比率



出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※業種別構成比率は、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

※使用した指数は「P.5「当資料で使用している指数について」をご参照ください。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

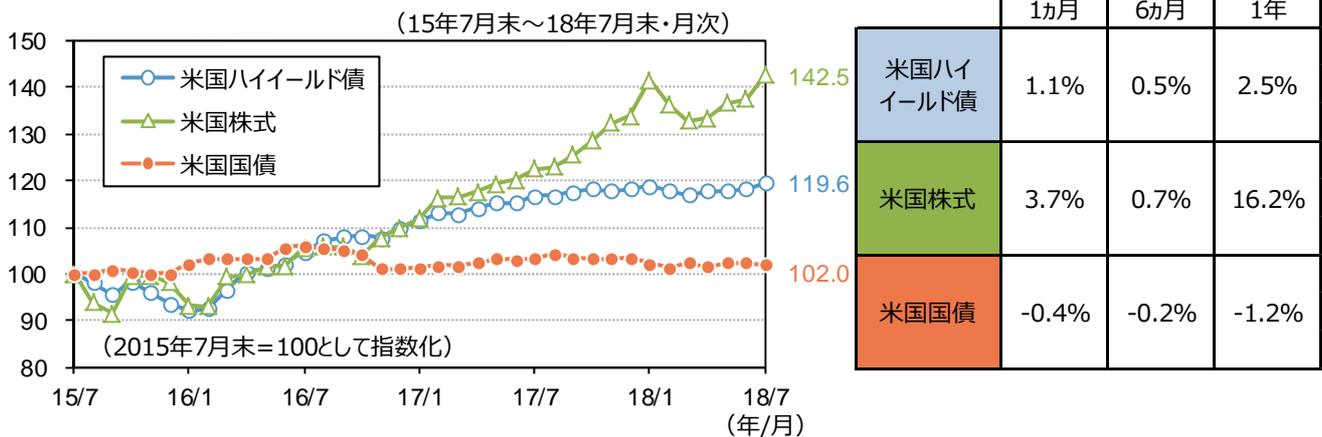
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

## 今後の見通し

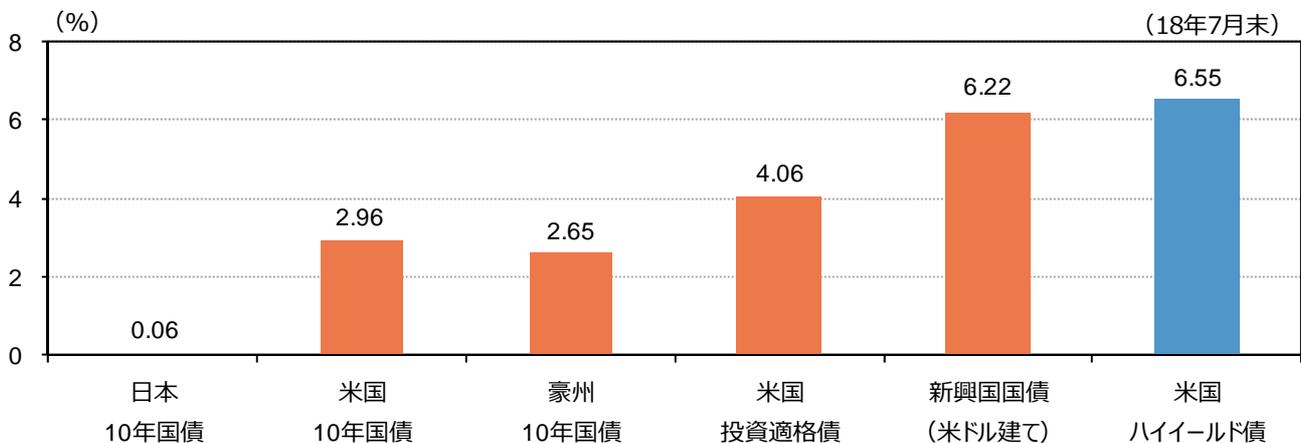
米国と各国の貿易摩擦を巡る警戒感の高まりなどから、リスク回避の動きが強まる可能性には留意が必要です。一方で、米国景気の拡大基調が継続するとみられることや、相対的に高い利回りを求める投資家需要が一定程度見込まれることなどから、底堅く推移すると予想します。

 <b>プラス要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国景気の拡大基調</li> <li>・ 相対的に高い利回り水準</li> </ul>
 <b>マイナス要因</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国を中心とする貿易摩擦への懸念</li> <li>・ 米国の金融政策正常化プロセスの進展</li> <li>・ 欧米の政治情勢を巡る不透明感</li> </ul>

## 各資産のパフォーマンスの推移と騰落率



## 主な債券との利回り比較



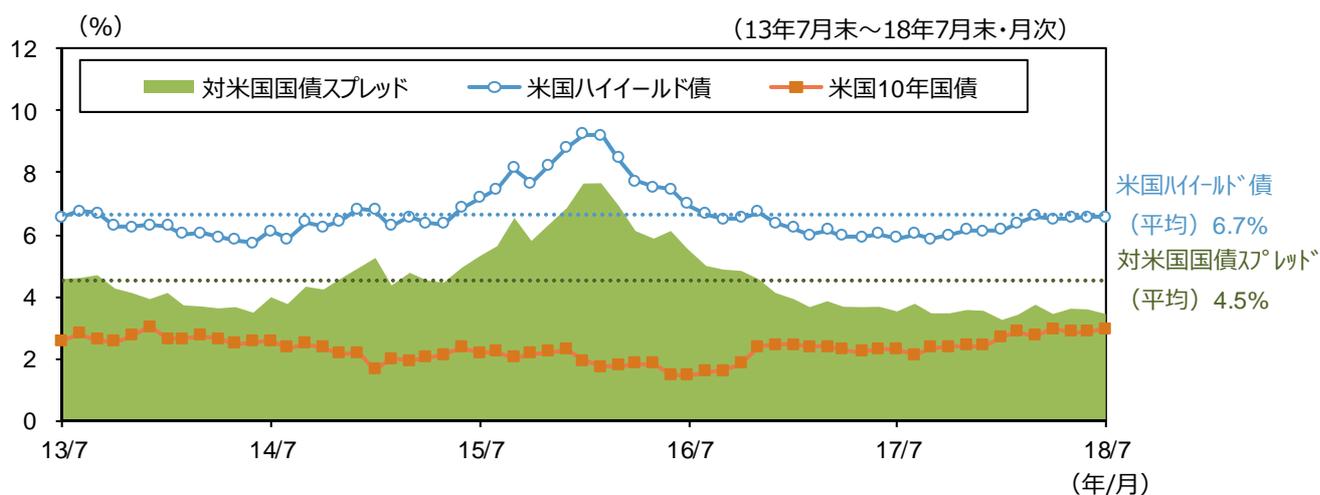
出所：ブルームバーグ、JPモルガンのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※使用した指数はP.5「当資料で使用している指数について」をご参照ください。

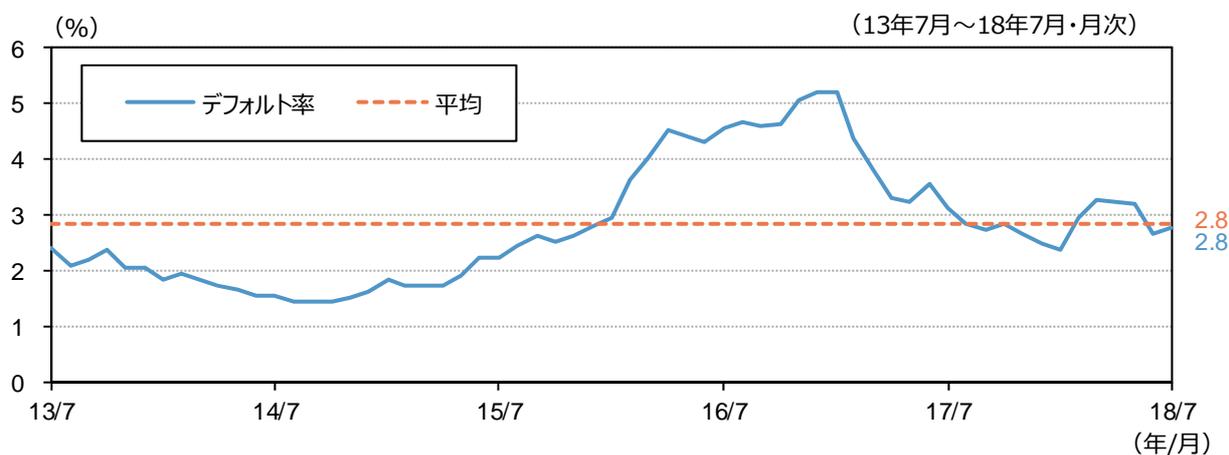
※上記グラフは過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

## 米国ハイールド債、米国10年国債利回りおよび対米国国債スプレッドの推移

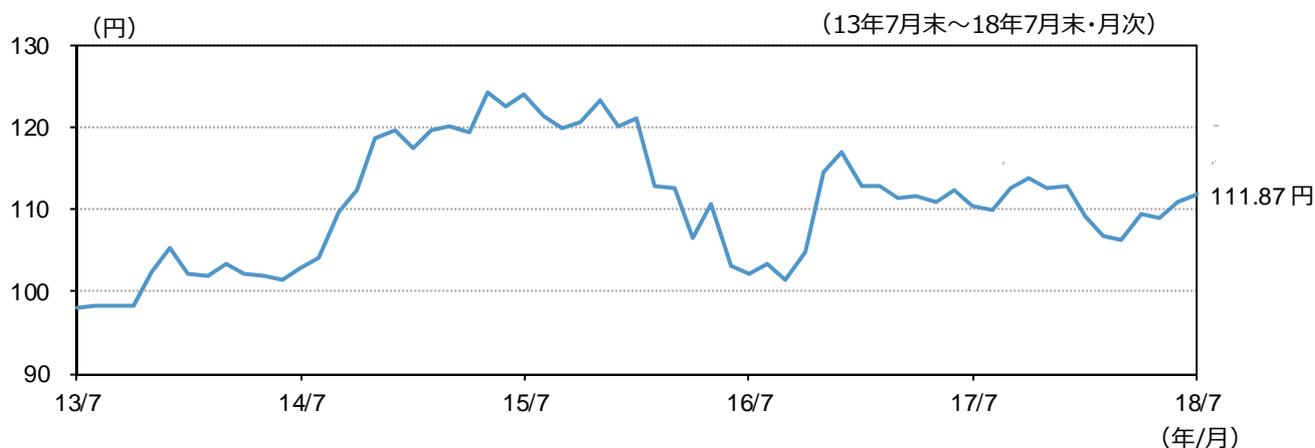


## 米国ハイールド債のデフォルト率\*の推移



\*デフォルト率は過去12か月間に米国ハイールド債市場においてデフォルトした銘柄数の割合を発行体ベースで算出したもの。

## 米ドルの対円為替レートの推移



出所：ブルームバーグ、JPモルガンのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※使用した指数はP.5「当資料で使用する指数について」をご参照ください。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

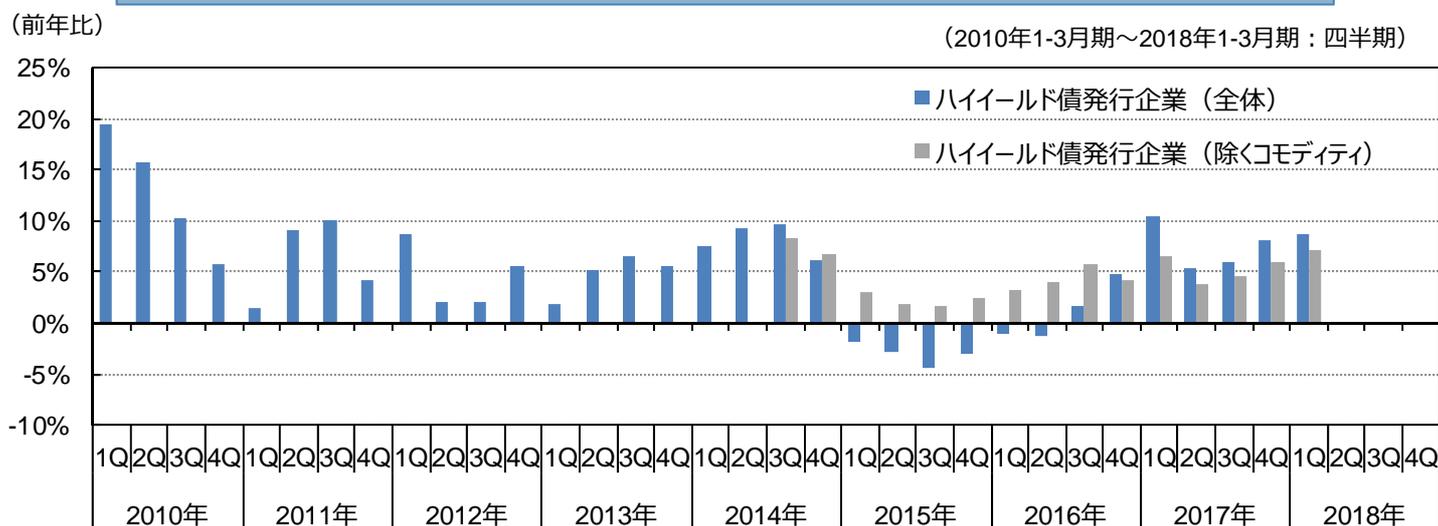
※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

# 米国ハイールド債発行企業のファンダメンタルズ

## 企業収益

2018年1-3月期の米国ハイールド債発行企業（全体）の収益は、前年同期比8.7%の伸びとなりました。引き続きエネルギーや金属鉱業セクターの伸びが顕著でした。

### 米国ハイールド債発行企業の収益の伸び率推移



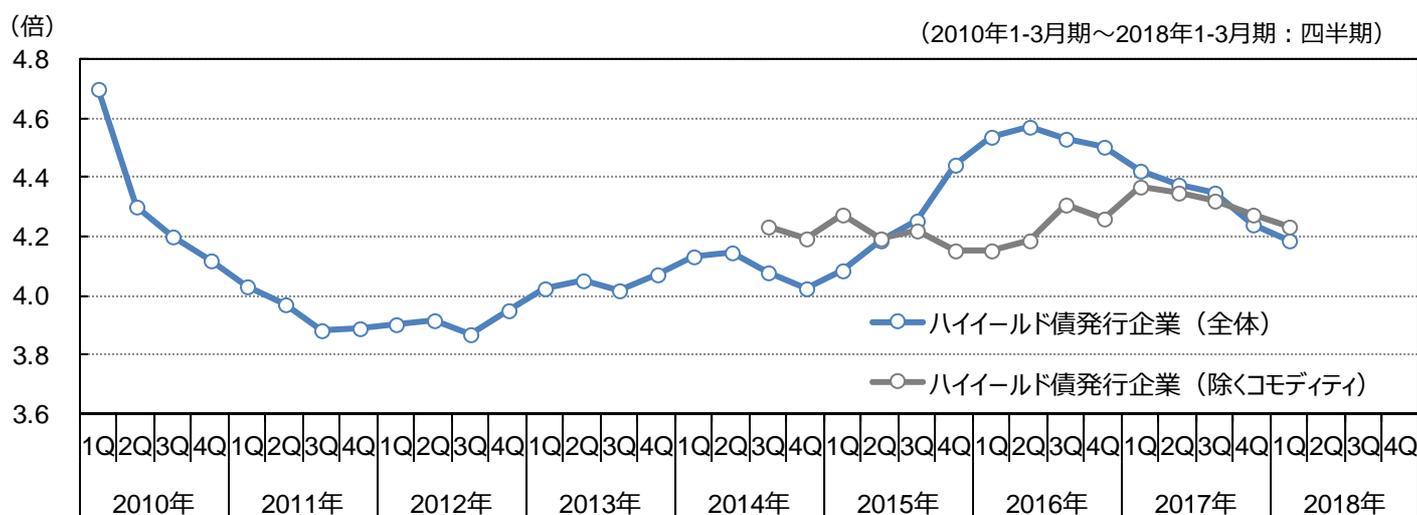
※ハイールド債発行企業（除くコモディティ）は2014年7-9月期～2018年1-3月期

## 財務の健全性

原油価格の下落などを背景に、2015年1-3月期からエネルギーや金属鉱業などのコモディティセクターで企業業績が悪化したため、米国ハイールド債発行企業の債務支払能力を表す有利子負債・EBITDA倍率\*は2016年4-6月期にかけて上昇しましたが、足元では堅調な企業収益の伸びなどを背景に、ハイールド債発行企業（全体）は7期連続で改善しました。

\* 発行企業の債務をEBITDA（税引前利益に支払利息と減価償却費を加算したもの）で除したもので、倍率が低いほど財務が健全とされる。

### 米国ハイールド債発行企業の有利子負債・EBITDA倍率の推移



※ハイールド債発行企業（除くコモディティ）は2014年7-9月期～2018年1-3月期

出所：JPモルガンのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記グラフは過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。

## 米国経済

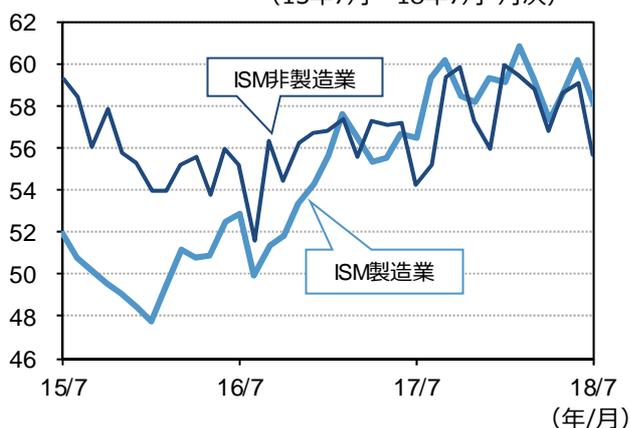
### ISM製造業景況指数は3カ月ぶりに低下

7月のISM製造業景況指数は、前月から2.1ポイント低下の58.1でした。個別項目をみると、「生産」が3.8ポイント低下の58.5、「新規受注」が3.3ポイント低下の60.2となっており、各項目は依然として高水準なもの、貿易摩擦の影響が懸念されます。7月のISM非製造業景況指数は、前月から3.4ポイント低下の55.7でした。

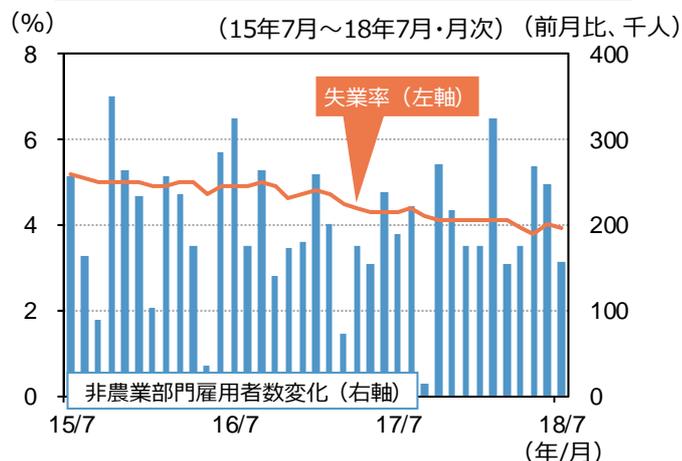
7月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比15.7万人増となりました。直近3か月の就労者数の伸びも月平均22.4万人と好調を維持しています。また、失業率は前月比0.1ポイント低下の3.9%と改善しており、労働市場の逼迫感は強まっています。

米国景気は、良好な雇用所得環境、個人・法人減税や歳出拡大の寄与などから、2018年内は年率3%を上回る成長が継続するとみられます。一方、中国などとの通商摩擦や北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉の行方など、リスク要因の行方には注意が必要です。特に自動車・同部品の関税率引き上げは米国経済に与える影響が大きく、今後の動向が注目されます。

ISM景況指数  
(15年7月～18年7月・月次)



雇用統計  
(15年7月～18年7月・月次) (前月比、千人)



### 米国の主な経済指標・イベント

経済指標・イベント	
8/10(金)	消費者物価指数
15(水)	小売売上高
15(水)	鉱工業生産
16(木)	住宅着工・許可件数
17(金)	ミシガン大学消費者信頼感指数
22(水)	中古住宅販売件数
23(木)	新築住宅販売件数
24(金)	耐久財受注

経済指標・イベント	
8/28(火)	S&P/ケース・シーラー住宅価格指数
28(火)	コンファンスポード消費者信頼感指数
29(水)	4-6月期GDP改定値
9/4(火)	ISM製造業景況指数
5(水)	貿易収支
6(木)	ISM非製造業景況指数
7(金)	雇用統計

#### 【当資料で使用している指数について】

- 米国ハイイールド債：ICE BofAML・US・キャッシュ・ペイ・ハイイールド・インデックス ■ 米国株式：S&P500種指数（配当込み）
- 米国国債：ICE BofAML・US・トレジャリー・インデックス ■ 米国投資適格債：ICE BofAML・US・コーポレート・インデックス
- 新興国国債（米ドル建て）：JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ディバースファイド

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記グラフは過去の実績であり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。また、上記表は作成日時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

## 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

### 【投資信託に係るリスクと費用】

#### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

#### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

##### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

##### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※ 上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

- その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

### 【ご注意事項】

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

●投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

### 【指数の著作権等】

※ICE Data Indices, LLC（「ICE Data」）、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、明示又は黙示のいずれかを問わず、インデックス、インデックス・データ、及びそれらに含まれ、関連し、又は派生する一切のデータを含めて、商品性又は特定の目的若しくは使用への適合性の保証を含む一切の表明及び保証を否認します。ICE Data、その関係会社又はそれらの第三者サプライヤーは、インデックス、インデックス・データ若しくはそれらの構成要素の適切性、正確性、適時性又は完全性について、なんら損害賠償又は責任を負わず、インデックス、インデックス・データ及びそれらの全ての構成要素は、現状有姿において提供されるものであり、自らの責任において使用いただくものです。ICE Data、その関係会社及びそれらの第三者サプライヤーは、アセットマネジメントOne（株）又はその製品若しくはサービスを後援、推薦又は推奨するものではありません。

※S&P500種指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500種指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

※JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。